西嶋義憲先生のご退職にあたって

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-04-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐藤, 清和, Sato, Kiyokazu メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00069141

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

西嶋義憲先生のご退職にあたって

金沢大学経済学経営学系長　佐　藤　清　和

西嶋義憲先生は，2023年３月末日をもって金沢大学を退職されます。本号は，それを記念して西嶋先生に献呈されます。

西嶋先生は，1980年千葉大学を卒業後，1988年広島大学大学院博士後期課程を単位取得後退学され，1992年本学教養部に助教授として着任されました。1996年からは経済学部に所属され，2002年同学部教授，また2008年の改組後は人間社会研究域経済学経営学系教授として30年の長きにわたって，学生・院生の教育指導に尽力され，またご専門の研究に専念されました。

この間，1997年には文部省（現文部科学省）の在外研究員としてドイツ・ハイデルベルク大学客員研究員，さらに2001年にはドイツ学術交流会招聘客員教授としてレーゲンスブルク大学にて在外研究にあたられました。

西嶋先生は，これまで経済学類および人間社会環境研究科において，社会言語学ならびに対象社会言語学の講義・演習を担当され，多くの学生や院生の指導にあたられるとともに，共通教育機構でも長年にわたりドイツ語の教育を担当されました。西嶋先生は，その誠実なお人柄からも伺えるように，学生一人ひとりに対して多くの時間をかけ熱心に指導に当たられました。このことは多数の学生・院生・留学生が頻繁に西嶋研究室を訪ねる姿が見かけられることはもとより，金沢大学学術情報リポジト（KUR A）において「ディズニープリンセス映画に見る言語的ジェンダー表現」と題する西嶋ゼミの卒業研究が，長きにわたって閲覧ランキングの第一位を飾っていること，さらにはこれまで４名の博士後期課程修了者を育て上げ，全員が国内外の大学で研究者として活躍されていることからも伺い知ることができます。

西島先生は，日本社会言語学会や日独社会科学学会に所属され，比較社会言語学の領域で独創的な研究を重ねてこられました。その詳細は本号巻末の主要業績一覧に記されているとおりですが，その中でも主著である『カフカ

と「お見通し発言」―「越境」する発話の機能―』では，カフカ作品にあらわれる発話の用法から，従来の物語研究に対して言語学の視点から一石を投じる挑戦的な研究が披露されています。

同書で示されている「お見通し発言」というのは，durchschauende Äußerungと呼ばれていますが，これは「2人称の相手の思考内容を断定的に発言するもの」(p.30)であり「文芸技法として語り手が登場人物の内面に介入し，それを叙述することはある。しかし，登場人物という点で同じレベルに属するはずの人物が，会話相手の私的領域の内面世界に介入し，それを叙述するというのは日常的な会話としては通常ありえない。そこには非日常的な何かが起こっている，もしくは，何らかの戦略としてその表現が用いられている」(p.34)という考察が示されています。

カフカ作品に通底する非日常性とは，独特の語彙やそのストーリーによるものだと思い込んでいる方（筆者もそのひとり）で，「お見通し発言」という発話機能が，なぜこうも多くのカフカ作品に登場し，それらをカフカ作品たらしめているのかという難問に挑みたい方には，ぜひ原著の一読をお勧めいたします。なお，同書のあとがきには「お見通し発言」について学会報告された際のユーモラスな事件が披瀝されていますが，これなどは研究書でありながら西嶋先生の飾らないお人柄を髣髴とさせる逸話として，本書において重要な役割を担っていることを強調しておきたいと思います。

同書は“A Linguistic Analysis of Fictional Conversations in Kafka's Works”と題して，2022年にCambridge Scholars Publishingより出版されております。

以上のような問題意識にとどまらず，西嶋先生は多様な言語空間において生み出される発話や記号，またその表彰としての看板や標識のあり様について，とりわけドイツ語と日本語を対象として比較検討されてきましたが，これらの社会言語学研究の数々は，欧文の論文集や国際学術誌に掲載され，高く評価されています。

いまなお研究意欲の旺盛な西嶋先生ですが，今後ますますのご健勝とご健康をお祈り申し上げるとともに，西嶋先生の流暢な独逸語を拝聴する機会を今なお切望しておりますことを申し添え，献辞とさせていただきます。